

# 但馬の蝶 10題

永幡嘉之

## 1. 温泉町でイシガケチョウを採集

1992年に但馬で2頭のイシガケチョウを採集しているので報告する。

1 ♀ 兵庫県美方郡温泉町切畑 15-VI-1992 永幡嘉之 (写真1)

1 ♀ " " " 扇ノ山小ヅッコ 27-VII-1992 " (写真2)

前者は飛翔中を、後者はヒヨドリバナに訪れているところを採集した。食樹イヌビワは浜坂町などに自生しているが、幼虫は発見できなかった。なお、同年岡山・鳥取両県では多くの成虫の記録が出たほか、鳥取市では幼虫も発見されたという<sup>1)</sup>。

## 2. キバネセセリの採集記録

県下では記録の少ない種である。筆者は氷ノ山山系で2頭採集した。

1 ♂ 兵庫県養父郡関宮町福定 氷ノ山 15-VIII-1988 永幡嘉之 (写真3)

1 ♂ " 美方郡美方町小代溪谷 7-VIII-1992 " (写真4)

氷ノ山では、氷ノ山越コース登山口の川原に15時頃、天候が悪化して雨の降り出す少し前に吸水に訪れていた。午前中多かったアオバセセリやコムラサキは姿を消し、本種の他に蝶の姿はなかった。小代溪谷では、晴天の18時頃林道で吸水していた。いずれも地表をせわしなく飛び回っていた。

## 3. 村岡町のホシチャバネセセリ

かつて関宮町梨ヶ原の氷ノ山山麓スキー場で採集したことがあったが、軟化展翅に失敗して破棄してしまった(1 ex., 25-VII-1986)。本年村岡町で採集した。

1 ♂ 兵庫県美方郡村岡町黒田 黒田スキー場 19-VII-1992 永幡嘉之

## 4. スジグロチャバネセセリとヘリグロチャバネセセリ

両種の分布状態はよく分からないが、採集個体以外にも本属の種を各地でしばしば見かけるので、今後注意していきたい。とりあえずは、採集個体についてのみ報告しておく。

スジグロチャバネセセリ

1 ♂	兵庫県養父郡関宮町丹戸	24-VII-1986	松本正孝
2 ♀	” ” ” ”	24-VII-1986	永幡嘉之
1 ♀	” ” ” ”	23-VII-1991	” (写真5)
1 ♂	” ” ” 福定	6-VIII-1987	”

ヘリグロチャバネセセリ

7 ♂	兵庫県美方郡浜坂町城山	22-VI-1991	永幡嘉之
3 ♀	” ” ” ”	6-VII-1991	”
6 ♂	” ” 温泉町霧ヶ滝	20-VII-1992	”

浜坂町城山では1992年にも採集している。

5. クロコノマチョウの採集例

本年但馬で3頭採集した。

1 ♂	兵庫県養父郡関宮町氷ノ山越付近	31-VII-1992	永幡嘉之
1 ♀	” 美方郡美方町小代溪谷	2-VIII-1992	”
1 ♀	” ” 浜坂町三尾	5-VIII-1992	”

氷ノ山では尾根上のブナ林の林床から飛び立ったものを、小代溪谷では夕刻飛翔中を発見した。三尾でもやはり夕刻にススキにまとわりつくように飛んでいるところを採集。産卵飛翔と思われたのでススキを調べたが、卵はみつからなかった。

三木市での記録はすでに発表した<sup>2)</sup>、他にも未発表の古い記録があるので報告する。

1 ♀	兵庫県三木市志染町戸田	8-VII-1978	小倉 滋
-----	-------------	------------	------

採集日が7月8日であるが、秋型である。越冬個体の生存例としてはかなり遅いものと思われる。静岡県では7月28日という記録もあるという<sup>3)</sup>。

6. 関宮町で採集したクツカケモンキチョウ

モンキチョウのab. kutsukakensisと呼ばれるタイプに含まれると思われる個体を関宮町で採集しているので報告する。

1 ♂	兵庫県養父郡関宮町足坂	12-VII-1988	永幡嘉之 (写真6)
-----	-------------	-------------	------------

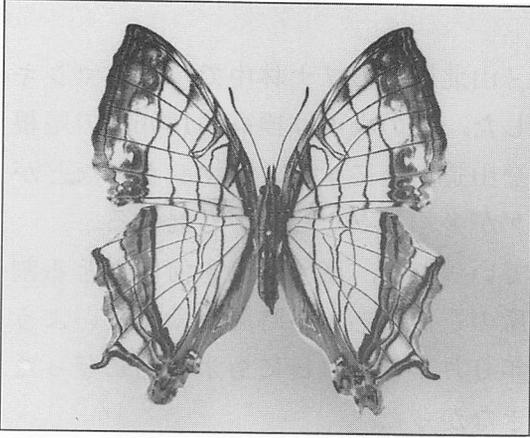


写真 1

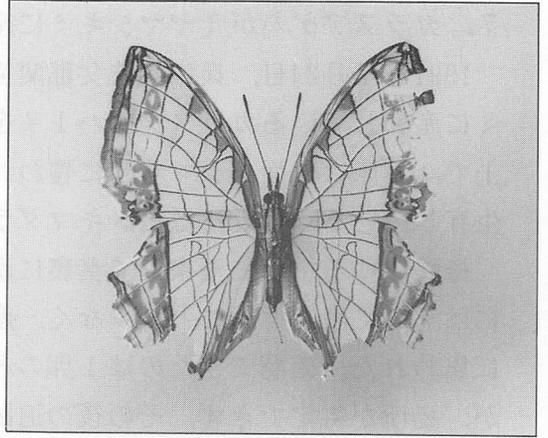


写真 2

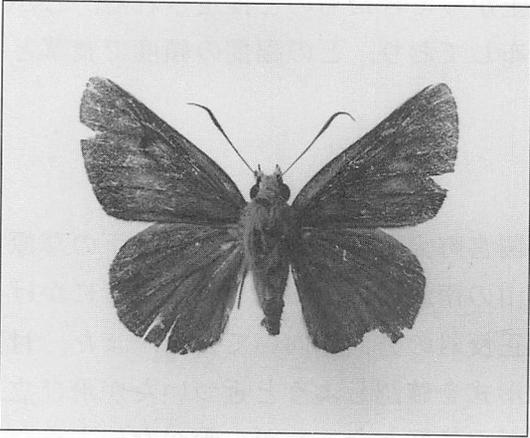


写真 3

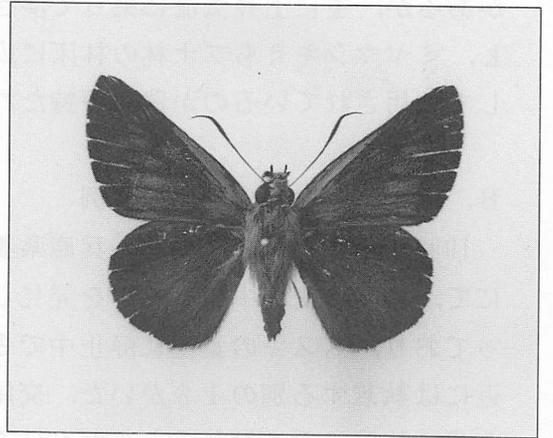


写真 4

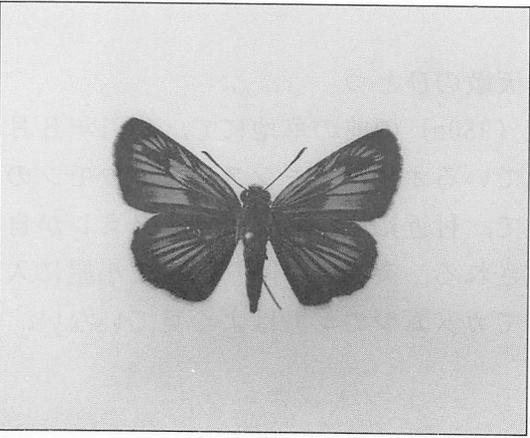


写真 5

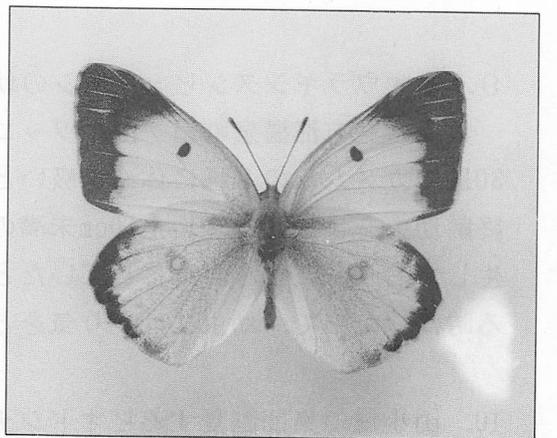


写真 6

## 7. カラスアゲハがミヤマシキミに産卵

1991年7月24日、兵庫県養父郡関宮町氷ノ山北尾根のブナ林中で、ミヤマシキミに産卵しているカラスアゲハ1♀を目撃した。この場所は標高約1300mの尾根上で、林床は一面チシマザサに覆われて、登山道沿いに少しミヤマシキミなどが生育している。付近にはヒメキマダラヒカゲが多く、クロヒカゲも混じる。

母蝶はゆるやかに飛来して葉裏に産卵していったが、産卵行動を何度もとる割には実際に産付することが少なく、産卵場所の選択にあたる時間がやや長いように思われた。確認できたのは1卵のみ。同年9月1日、8日にも氷ノ山に登ったが、場所が特定できず、その後の追跡はできなかった。

氷ノ山では山頂部でもカラスアゲハやミヤマカラスアゲハの姿を見かけることがあるが、主に上昇気流に乗って渓谷から上がってきたものと推定される。しかし、ミヤマシキミもブナ林の林床に広く分布しており、どの程度の頻度で食草として利用されているのか興味が持たれる。

## 8. ホソバセセリの交尾観察例

1991年7月14日16時18分、兵庫県養父郡関宮町大久保のスキーリフト下の草原にて、本種の交尾中の1ペアを発見した。山の南斜面であるため陽はすでにかがっており、ススキの葉上に静止中で♂♀は正反対の方向を向いていた。また、付近には執着する別の1♂がいた。交尾飛翔形式を確認しようと近づいたが飛び立たず、故意に手を触れると♂が♀にぶら下がる格好となったが、飛べないようだった。両方一度にはばたくのでバランスがとれず飛べないよう思われた。

## 9. オオウラギンスジヒョウモンの幼虫の天敵のひとつ

兵庫県美方郡温泉町扇ノ山小ツッコ小屋(980m)の前の草地にて、1991年6月30日にカメムシの1種に体液を吸いとられているオオウラギンスジヒョウモンの終齢幼虫を目撃した。地上10cm未満の草上で、付近には一面にニョイスミレが自生しており、これを食草にしていたと推定される。突如雨が降り出して小屋に入る時だったので、幼虫にばかり気をとられてカメムシの形態はよく見ていない。

## 10. 山小屋で集団越夏するヒオドシチョウ

本種の休眠には不明な点が多いとして最近注目を集めているようである<sup>4)</sup>。筆

者は偶然にも20頭にも及ぶ個体が山小屋のなかに集まっているのを観察する機会に恵まれたので、甚だ不十分ながらここに書き留めておきたい。

#### 〔氷ノ山の山小屋〕

兵庫県養父郡関宮町の氷ノ山から鉢伏山に至るブンマワシコースは、冬期のスキーツアーのルートとして避難小屋も整備されている。そのなかで峠に位置する氷ノ山越（約1250m）の避難小屋は老朽化が目立ってきているが、1991年7月24日に立ち寄ったところ、内部の鉄の柱、壁に掛けられた雑巾、わら束などの下面に、全部で20頭のヒオドシチョウがとまっていた。扉を開けると大きな音が響き、やはり内部に多くいたザトウムシは体を震わせて警戒したのに対し、ヒオドシチョウは全く動かなかった。同日、氷ノ山北尾根や山頂で活動中の個体も数頭見られた。

次いで9月1日、再び同地を訪れた。小屋の中には23頭の本種がおり、そのうち1頭は白い菌類に冒されて落下していた。残りの22頭のとまっている場所は、7月とはやや異なっているように思えたが、マーキングもしななかったので詳しいことは分からない。そのうちの1頭をよく観察してみると、触角は翅の間に入れており、手を触れても動かず、完全に休眠に入っているようだった。しばらく手の上に乗せていると、わずかに脚を動かしたが、飛び立つまでには至らなかった。約3mのこの小屋の内部で、静止している部分を高さ別に調べたところ、40cm以下10頭、～80cm 1頭、～150cm なし、～200cm 1頭、～300cm 10頭であった。この日は天候が思わしくなく、活動中の成虫は発見できなかった。

9月8日には、坂田勉氏と氷ノ山に登り、休眠中の本種の写真を撮っていた（写真7・8）。ほぼ9月1日と変化がなく、静止している場所も同じであったが、先を急いでしまい、細かく数えないまま通過してしまった。小屋のなかにはおびただしいフクラスズメが見られ、やはり柱の隙間などで休眠に入っているようだった（写真9）。山頂直下のコシキ岩で活動中のヒオドシチョウ成虫を確認した（写真10）。

9月下旬に日本全国を襲った台風19号は各地に大きな被害をもたらしたが、風をまともに受ける氷ノ山越の小屋も例外ではなかった。10月26日に訪れてみると、峠の目印だった大きな杉の木が途中から折れており、直撃を受けた小屋の屋根は大きくくぼんでしまっていた。中に入ってみると、このまま越冬するのではないかと期待を抱かせたヒオドシチョウの姿は全く見当たらなかった。台風の時には



写真 7



写真 8



写真 9



写真 10

相当大きな衝撃を受けたであろうが、そのために別の場所に移ったのか、それとも夏眠と越冬の場所が違うのかは定かでない。この10月26日にもまた少数の活動中の成虫が見られた。

以上が氷ノ山越の小屋における観察の全てである。この小屋は、地面と接する部分に40cm×40cm位の大きな穴があいており、入り込みやすかったものと思われる。他に大平頭、山頂、東尾根の小屋を見たが、大平頭は最近建て直されたばかりでヤマキマダラヒカゲ、クロヒカゲ、テングチョウなどが入り込んでいたが本種の姿はなかった。山頂は人の出入りが激しく、蝶の姿はなかった。東尾根の小屋のなかには数百頭のマダラカマドウマがおり、扉を開けると跳びはねる音が大変賑やかであった。ここにも蝶の姿はなかった。

#### [扇ノ山の山小屋]

兵庫県美方郡温泉町扇ノ山の小ツッコの山小屋では、一層断片的な観察例しかない。まず1991年6月28～30日、多くの本種の成虫が活動している時期に、小屋の2階の天井に3日間静止したまま全く動かない個体が1頭見られた。また、これとは別に、29日に小屋の中を飛んでいる成虫も1頭いた。やはり休眠場所を探しているようであったが追跡できなかった。

11月1日には、1階の窓の脇にじっと静止しているものが1頭いた。薪を燃やして煙が立ち込めたときに1度飛び立ち姿を消したが、翌朝には再び同じ位置に戻っていた。

この報文をまとめるにあたり、記録の発表をお許しいただいた小倉滋氏、ヒオドシチョウの写真を撮影して下さった坂田勉氏、標本写真を撮影していただいた足立義弘氏、兵庫県内の蝶の分布について日頃から御教示いただいている広畑政己氏、近藤伸一氏に深い謝意を表したい。

#### 参考文献

- 1) 國本洗紀 (1992) イシガケチョウの多発生, ゆらぎあ10: 18.
- 2) 永幡嘉之 (1989) 三木市大村の昆虫類 I, 蝶相, 釜城生物1: 18-58.
- 3) 福田晴夫ほか (1984) 原色日本蝶類生態図鑑 (IV), 保育社, 大阪.
- 4) 同上 (1983) " (II), " "